

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (学校・地域を避難所と想定した防災キャンプ)

岐阜県防災キャンプ推進事業

岐阜県

【事業のポイント】

○想定される災害や被災に対し、関係機関と連携して、自治会などの地域住民や保護者の協力を得て、学校等を避難所とし、児童生徒を中心に防災キャンプ推進事業を実施する。

【写真】

防災キャンプin伊深【伊深地域プラットフォーム】
住民向け防災講演会の様子



1. 企画

(1) 事業実施の背景

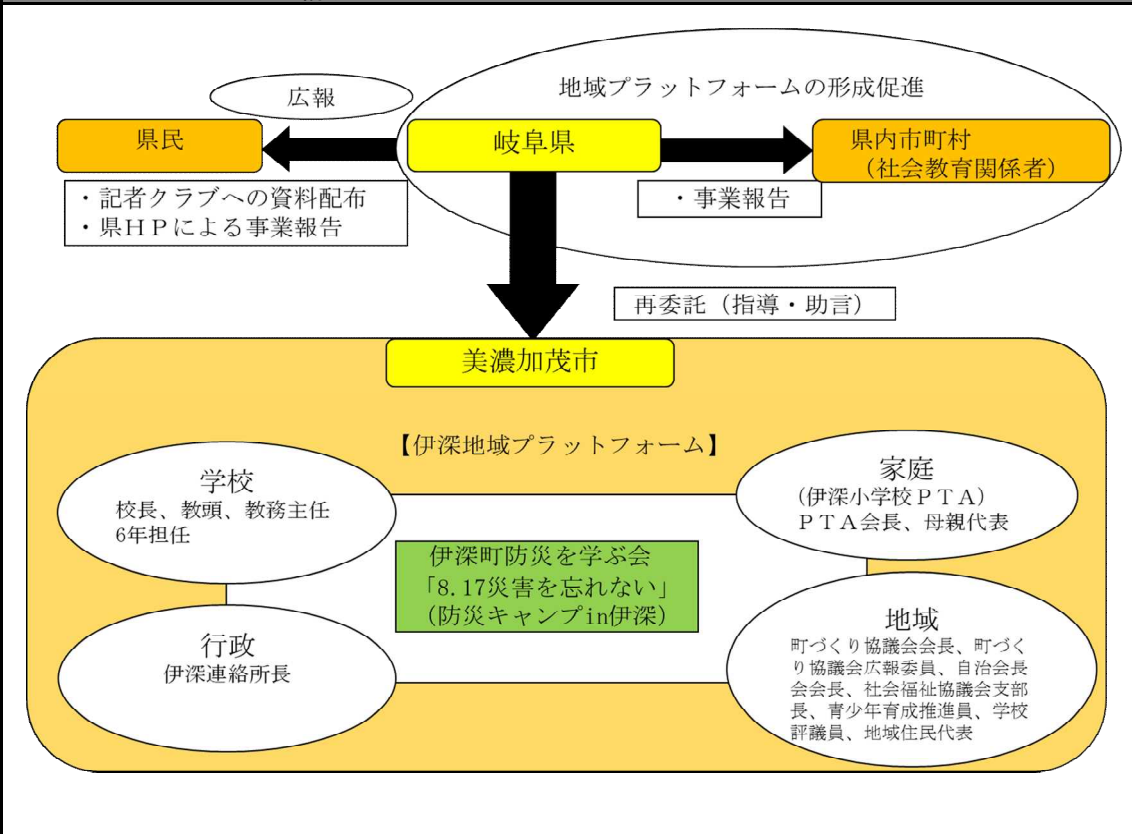
東日本大震災等を契機として、防災に関する意識が高まる中、県内各地において、県内の各地域で想定される災害や被災時の対応を疑似体験するための事業が求められた。また近年増加傾向にある集中豪雨や、東海地方で将来的におこると想定されている南海トラフ巨大地震をふまえ、特に、被災時に避難の拠点となる学校や公民館での体験活動に対し、関心が高まった。

(2) わらい

学校や公民館を舞台に、学校や地域社会、関係機関・団体等が協力して、防災キャンプを実施することによって、防災の大切さを実感させる。また共通の体験を通して地域の一員としての自覚を育てることによって、地域プラットフォームの形成に資する。
また防災キャンプの実施を学校教育・社会教育関係者に広く周知することを通して、防災教育の推進と地域の防災活動の充実、および他地域の地域プラットフォームの形成の促進を図る。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成



(2) 具体的な取組の概要

伊深地域プラットフォーム(美濃加茂市)

○防災キャンプ実施概要

【活動名】防災キャンプin伊深

【実施日】平成29年9月29日(金)、10月5日(木)、10月6日(金)～7日(土)、10月10日(火)

【実施場所】美濃加茂市立伊深小学校及び体育館

【参加者】美濃加茂市立伊深小学校全校児童(10月6日(金)の宿泊については5・6年児童のみ)

【参加人数】事前学習(児童59名、学校職員12名、実行委員12名 計83名)

当日(児童17名、学校職員9名、実行委員12名、地域住民32名 計70名)

事後学習(児童17名、学校職員2名 計19名)

○活動プログラム

(1) 実行委員会(全6回)

- ・第1回: 主旨及び実施要項の説明
- ・第2回: 事前学習、役割分担について
- ・第3回: 事前学習の見学、タイムスケジュールの確認
- ・第4回: 会場準備、タイムスケジュールなどの最終確認
- ・第5回: 振り返り
- ・第6回: 事業報告、決算報告

(2) 防災キャンプ

① 事前学習(9月29日)

伊深町で発生した過去の災害「8.17災害」の体験者からの講演

② 手作り防災グッズ作り

新聞紙を活用したスリッパ、広告を活用した紙皿、キッチンペーパーを活用したマスクを作成

③ 防災オリエンテーリング(10月5日)

通学班で通学路を歩き、「地震」「大雨」「交通」「自然」の4つの視点で危険箇所を探し、タブレットを活用して写真を撮影

④ 防災キャンプ(10月6日～7日)

～1日目～

○ 防災マップ作り

防災オリエンテーリングで見つけた危険箇所をもとに防災マップを作成

○ 防災講演会

「自分の命を守るために～災害の教訓から学ぶ～」

(講師: 防災士 岩井慶次氏)

○ 避難所の運営訓練、炊飯

地域の避難住民の受け入れ

日本赤十字社非常災害用ハイゼックス包装食袋を活用した炊飯

○ 住民向け防災講演会

「家庭における災害への備え」

(講師: 防災士 岩井慶次氏)

○ 炊き出しの試食

ハンリを活用した豚汁

○ 避難所パーティーの設営

防災士の指導を受け、避難所パーティーを設営

○ 暗闇体験

懐中電灯の明かりだけを頼りに校舎内を1周

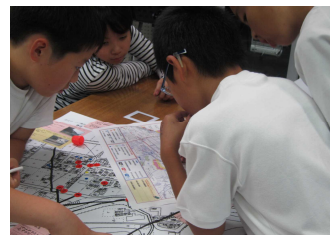
～2日目～

○ 朝食

牛乳パックを活用した「カートンドッグ」作り

⑤ 防災川柳作り(10月10日)

「防災キャンプin伊深」の活動全体を振り返り、防災に関して学んだことの川柳を作成



防災マップ作り



パーティー設営

(3) 実績スケジュール

月 日	内 容
7月10日	第1回実行委員会の開催
9月6日	第2回実行委員会の開催
9月29日	事前学習、第3回実行委員会の開催
10月5日	防災オリエンテーリング、第4回実行委員会の開催
10月6日	防災キャンプin伊深(1日目)、第5回実行委員会の開催
10月7日	防災キャンプin伊深(2日目)
10月10日	防災川柳作り
11月14日	第6回実行委員会の開催
11月30日	岐阜県社会教育主事等研修会兼地域コーディネーター研修会にて事業報告
12月1日	岐阜県社会教育主事等研修会兼地域コーディネーター研修会にて事業報告

3. 成果と課題

(1) 成果

- ①防災に対する関心の深まり
- ・防災の専門家である講師の話を書くことやさまざまな防災体験プログラムを通して、災害を自分のこととして考えることができ、防災に対する関心が深まった。
- ②地域住民との交流
- ・子どもたちと地域住民と一緒にプログラムに参加したことで、共に助け合うことの大切さや自分ができることについて理解を深めることができた。
 - ・事業の実施にあたって学校、行政、家庭、地域が協力して取り組んだことで地域全体で人づくりやまちづくりを行う地域プラットフォームの地盤を形成することができた。

(2) 課題

- 事業成果の周知
- ・防災キャンプを通じたプラットフォーム形成に関する事業成果を学校教育・社会教育関係者に広く周知することを通して、防災教育の推進と地域の防災活動の充実、および他地域の地域プラットフォームの形成の促進を図る。

4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

- ①持続可能な仕組みづくり
- ・今回のキャンプが単発の活動で終わってしまうことのないよう、地域と学校が連携し、継続、そしてさらなる発展をしながら実施する仕組みを作っていく。
- ②地域プラットフォームの拡大
- ・今回のキャンプで形成された地域プラットフォームを防災教育にとどまらず、人づくりやまちづくりなどさまざまな分野で生かしていく。

5. 団体プロフィール

岐阜県

〒500-8570 岐阜県岐阜市藪田南2-1-1
担当課: 岐阜県環境生活部環境生活政策課
TEL: 058-272-1111 (内3575)
FAX: 058-278-2605

